

公表: 2020年 5月 20日

事業所名 社会福祉法人北海道クリスチャンセンター福祉会 家庭福祉相談室

チェック項目		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	90%	10%		大ホールやホールなど、身体を十分に動かすことができるスペースがある。 状況に応じて個室で対応したり、部屋の大きさを替え対応している。 プログラム毎に遊具設定を変えるなど、環境を整えている。	
	② 職員の配置数は適切であるか	80%	20%		規程の職員数に加え、実習生やボランティアの協力を受けながら、より手厚い支援を行っている。保護者の相談のためのカウンセラーを配置し、子ども・保護者両面のサポートを行っている。	
	③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	70%	20%	10%	個別に対応し、一人ひとりわかりやすいような工夫をしている。施設ビルにエレベーターが設置してあり、利用可能である	入口に段差があるなど、使用空間全体が、バリアフリーになっていない。
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	100%			参加メンバーの時々に応じて、遊具設定を考えている。 コロナウィルスの流行後は、特にグループ終了後すぐ消毒作業をしたり、いつも以上に丁寧に清掃を行っている。	
業務改善	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	100%			毎月の職員会議で、全員で確認している。	記録用紙等の改善に取り組んでいる。
	⑥ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	70%	20%	10%	個別支援計画時は、面談を行い、説明をする。 必要に応じて適宜個別面談を行い、保護者のニーズを聞きとり、対応を考えていく。園訪問時も同様。	
	⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	70%	20%	10%		
	⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	20%	50%	30%		
	⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	100%			研修費、資格取得のための研修費、図書購入などの経費を、相談室が負担し、研修参加を勧める。	研修参加の時間を確保したい。
適切な	⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	90%	10%		確認票で保護者のニーズを確認したり、聞き取りをしている。	
	⑪ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	90%	10%		KIDSや遠城寺発達検査を実施し、アセスメントを行っている。	

支援の提供	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	90%	10%		すべての項目に即した計画を設定している。必要な家族に対して、申請手続きに同行したり、ちびちびという子育て支援に特化したグループを作り、地域の子育て支援を行っている。	
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	90%	10%			
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っているか	90%	10%		毎回、グループ前に担当スタッフで話し合い、決定する。	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	100%			月ごとに大枠を決め、少しずつ変化させていく。	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて児童発達支援計画を作成しているか	100%			個別課題時間、集団活動の時間を組み込み、その中での子供の発達を見ていく。	
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	100%			毎回必ず、打ち合わせを行い、目的やねらいをかかわるスタッフ全員で共有する。	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	100%			グループに参加したスタッフ、ワーカーと共に振り返りを行い、次回に生かす。	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	100%			毎回必ず記録をとり、残す。	記録用紙を改善し、記録しやすい、わかりやすい様式を考えていく。
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	100%			学期ごとに振り返りを丁寧に行う。年度途中で支援計画の評価を行い、見直しをしていく。	
	関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	80%	10%	10%	
㉒		母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	90%	10%		保健センターの紹介等でつながるケースがある。	
㉓		(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	/	/	/	医療的ケアの必要な子供や、重症心身障害のある子供が、メンバーにいない。	
㉔		(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	/	/	/		
㉕		移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	90%		10%	学期ごとに「保育所等訪問支援事業」の中で、訪問支援を行っている。資料の送付や、電話連絡、引継ぎを行っている。	
㉖		移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	90%		10%	資料を作成し、就学先を訪問し、引継ぎを行う。	
㉗		他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	50%	10%	40%		参加できる研修の時間を作っていきたい。
㉘		保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	50%	10%	40%		隣接するはこぶね保育園との交流を、もっとしていきたい。
㉙		(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	20%	30%	50%		

	⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	100%			入室時、退室時に保護者に家庭での子供の様子を聞き取ったり、プレイの様子、変化を伝えている。	
	⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っているか	80%	20%		親グループを設け、情報提供や他の保護者と話し合う機会を作っている。 ペアレントトレーニングとは銘打たないが、就学、就園については、外部講師を招いたり、先輩ママの話聞くなどの機会を設けている。	
	⑫	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	90%	10%		経費、体制については、契約時、契約書や重要事項で、説明している。	運営規程は、個別に説明していない。
	⑬	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	90%	10%		個別支援計画については、保護者の希望も聞き、支援計画を作成し、個別にその説明をその都度行っている。	ガイドラインも併せて示すようにする。
	⑭	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	100%			子どもが療育を受けている時間、保護者は親グループに参加。カウンセラーが常にそこに参加している。	
	⑮	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	70%	30%		日常的には、親グループがあるが、更に相談室主体の行事の時、保護者同士交流できる場を設けている。	
	⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	90%	10%		電話での相談、連絡ノート、面談を行って保護者の相談に乗っている。	
	⑰	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	90%	10%		各グループごとに、毎月グループ通信を出し、子供たちの様子や、プログラムの意図していることなどを伝えている。後援会の機関紙「相談室だより」に療育の様子を載せ、保護者に配布する。	
	⑱	個人情報の取扱いに十分注意しているか	100%			プライバシーポリシーの意図していることを機会あるごとに、周知していく。	
	⑲	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	100%			文字の色を変えたり、下線を引く等保護者に合わせて理解しやすい文章を作ることがある。	
	⑳	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	40%	50%	10%	「支援者の集い」などで、地域に働きかけている。	
非常時等の対応	㉑	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	80%	20%		各グループ年1回、避難訓練を計画している。	様々な緊急時対応があるので、それに沿った訓練が必要と思われる。
	㉒	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	70%	30%		各グループ年1回、避難訓練を計画している。	様々な緊急時対応があるので、それに沿った訓練が必要と思われる。
	㉓	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	100%			年度当初 確認票で確認し、詳細は個別に聞いている。	予防接種については確認票にない。記入欄を設けるべきか。
	㉔	食物アレルギーのある子どもについて、示書に基づく対応がされているか 医師の指示に基づく対応がされているか	90%	10%		保護者からの申し出により、それに沿って対応している。	

④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	80%	20%		軽微なことでも記録し、スタッフ会議で報告し、注意点を確認している。	事例集などに、まとめて記録していく。
④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	90%	10%		年度初めに研修会を実施。	今後より深い理解を進めるための研修会を行
④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか				身体拘束を行っていない。	保護者に対しての説明をしていく。

◎ この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。







